



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月3日

上場会社名 参天製薬株式会社 上場取引所 東・大
 コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明 (TEL) 06 (6321) 7007
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 原田 哲 配当支払開始予定日 -
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	26,212	△10.5	6,637	△35.6	7,147	△31.8	4,578	△30.1
22年3月期第1四半期	29,302	15.1	10,308	-	10,477	-	6,548	-

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	53	79	53	72
22年3月期第1四半期	77	00	76	91

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
23年3月期第1四半期	159,810		137,442		85.8		1,611 67	
22年3月期	166,878		137,603		82.3		1,614 08	

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 137,182百万円 22年3月期 137,342百万円

2. 配当の状況

	年間配当金								
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計		
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	
22年3月期	0	00	40	00	0	00	40	00	80 00
23年3月期	0	00							
23年3月期(予想)			40	00	0	00	40	00	80 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期（累計）	54,300	△8.2	13,800	△27.5	14,200	△24.8	9,400	△19.5	110	50
通期	108,500	△1.9	26,300	△11.3	27,000	△9.6	17,500	△6.5	205	72

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 5「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	87,026,503株	22年3月期	86,992,503株
23年3月期1Q	1,908,567株	22年3月期	1,902,026株
23年3月期1Q	85,118,088株	22年3月期1Q	85,043,333株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	5
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 連結参考資料	11
(1) 主要製品売上高	11
(2) 医薬品開発状況	12
(3) 設備投資、減価償却費、研究開発費の実績および見込額	14

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

① 当第1四半期の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、薬価改定の影響はありましたが、網膜疾患治療剤、緑内障治療剤および角膜疾患治療剤の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、需要の減少に加えて、流通価格下落の影響があり、前年同期と比べ縮小しました。

このような状況下、当第1四半期の業績は、次のとおり減収減益となりましたが、これは前年同期においてライセンス契約に基づく一時金収入による売上・利益の増加等、一過性要因によるものであり、これらを除いた売上・利益は、順調に推移しました。

(単位：百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	前年同期増減率
売上高	29,302	26,212	△10.5%
営業利益	10,308	6,637	△35.6%
経常利益	10,477	7,147	△31.8%
四半期純利益	6,548	4,578	△30.1%

[売上高]

前年同期から10.5%減少し、262億1千2百万円となりました。

主力の国内医療用医薬品事業においてマイナス5%台半ばの薬価改定の影響があったものの、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」等を中心に売上を拡大し、前年同期におけるライセンス契約に基づく一時金収入を除いたベースでは、ほぼ横ばいとなりました。

[営業利益]

前年同期から35.6%減少し、66億3千7百万円となりました。

売上原価は85億4千万円となり、売上原価率は32.6%となりました。販売費及び一般管理費については、110億3千4百万円となり、このうち研究開発費は33億8千万円となりました。

[経常利益]

前年同期から31.8%減少し、71億4千7百万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期から30.1%減少し、45億7千8百万円となりました。

② 当第1四半期におけるセグメント別業績の状況

当社は、医薬品事業とその他事業の2つのセグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は98.3%となっています。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	22,241	△0.5%	3,517	△46.6%	25,759	△11.0%
医療用医薬品	21,256	0.9%	3,517	△46.6%	24,773	△10.4%
うち眼科薬	18,514	1.3%	3,395	△1.2%	21,910	0.9%
うち抗リウマチ薬	2,569	1.2%	19	△0.0%	2,588	1.2%
うちその他医薬品	173	△29.9%	101	△96.7%	274	△91.8%
一般用医薬品	985	△23.6%	0	△89.9%	986	△24.0%
その他事業	313	46.0%	139	△4.1%	453	25.8%
医療機器	310	48.0%	139	△4.1%	450	26.7%
その他	2	△41.7%	—	—	2	△41.7%
合計	22,555	△0.0%	3,657	△45.7%	26,212	△10.5%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

当第1四半期の医薬品事業の売上高は、前年同期から11.0%減少し257億5千9百万円となり、営業利益は、67億3千万円となりました。医療用医薬品の売上高は、前年同期、海外においてライセンス契約に伴う一時金収入があったことなどにより、10.4%減少し247億7千3百万円となりました。

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を引き続き実施しました結果、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ1.3%増加し185億1千4百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は16億2千万円となりました。

角膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高める製品特性などにより数量ベースでは順調な伸びを示しましたが、薬価改定の影響があり、売上高は、前年同期と比べ3.8%減少し46億3千5百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」、「タリビット点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べほぼ横ばいの34億1千5百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力しましたが、薬価改定の影響に加えて、スギ花粉の飛散が前年と比べ小規模であったことや競争の激化もあり、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ9.6%減少し5億1千1百万円となりました。

[海外]

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ1.2%減少し33億9千5百万円となりました。

欧州では、医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツにおいて新製品の緑内障・高眼圧症治療薬「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンE N錠」ならびに「メトレート錠」が関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ1.2%増加し25億8千8百万円となりました。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬の中で「サンテメディカル10」、「サンテ40 i」および「サンテFX Vプラス」を中心に販売促進に注力しましたが、需要の減少や競合の影響もあり、前年同期と比べ24.0%減少し9億8千6百万円となりました。

[その他事業]

当第1四半期のその他事業の売上高は、前年同期から25.8%増加し4億5千3百万円となり、営業損失は、9千3百万円となりました。

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力素材を光学部に用いたフォルダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期から26.7%増加し4億5千万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、㈱クレール(連結子会社)での無塵・無菌服のクリーニング業によるものであり、2百万円となりました。

③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体DE-085(一般名:タフルプロスト)は、平成20年12月より日本で販売中です。欧州では、平成20年6月のドイツに始まり、現在、12カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成22年3月に香港、次いで5月に韓国で発売し、中国では、第Ⅲ相試験を実施中です。また、平成21年4月には、メルク社とのライセンス契約締結により、西欧(ドイツを除く)、北米、南米およびアフリカにおける販売権をメルク社に許諾しました。メルク社は平成21年9月よりイギリスおよびスペインで、また平成22年5月よりオランダ、7月にはイタリアでタフルプロストを販売しており、米国でも開発を継続しています。同じく緑内障・高眼圧症を適応症とするROCK阻害剤のDE-104(一般名:未定)は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験の結果を踏まえ、より強い眼圧下降効果を目指して用量を増加した臨床試験(第Ⅰ相/前期第Ⅱ相試験)を米国にて追加実施中です。

角結膜疾患(ドライアイを含む)領域において、DE-089(一般名:ジクアホソルナトリウム)は、平成22年4月にドライアイ治療剤として日本での製造販売承認を取得し、現在、発売準備中です。中国においても第Ⅲ相試験を実施中です。また、ドライアイを含む角結膜上皮障害を適応症とするDE-101(一般名:リボグリタゾン)は、米国および日本での前期第Ⅱ相試験結果を踏まえ、日本では後期第Ⅱ相試験を実施中で、米国では高用量製剤を追加した臨床試験(第Ⅰ相/第Ⅱ相試験)を実施中です。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105(一般名:未定)は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。そして、選択的グルココルチコイド受容体作動薬DE-110(一般名:未定)は、ドライアイを含む角結膜上皮障害およびアレルギー性結膜炎を対象とした第Ⅱ相試験を米国で準備中です。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102(一般名:未定)は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験(第Ⅰ相/前期第Ⅱ相試験)を日本で実施中です。また、滲出型加齢黄斑変性と糖尿病黄斑浮腫を適応症としたDE-109(一般名:シロリムス)は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験(第Ⅰ相/前期第Ⅱ相試験)を日本で実施中です。

外眼部感染症を適応症とするDE-108(一般名:レボフロキサシン(1.5%))は、平成22年2月に製造販売承認を申請し、現在、承認審査中です。

関節リウマチを適応症とするDE-098(一般名:未定)は、患者さんを対象とした忍容性および有効性確認試験(第Ⅰ相/第Ⅱ相試験)を欧州および日本で実施中です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の資産は、前連結会計年度末と比べ70億6千8百万円減少し、1,598億1千万円となりました。受取手形及び売掛金の増加などがありましたが、現金及び預金の減少、投資有価証券の時価評価による減少などが要因です。

負債は、前連結会計年度末と比べ69億8百万円減少し、223億6千7百万円となりました。未払法人税等の支払い、賞与引当金の取崩しなどが要因です。

純資産は、前連結会計年度末と比べ1億6千1百万円減少し、1,374億4千2百万円となりました。利益剰余金の増加などがありましたが、その他有価証券評価差額金の減少、為替換算調整勘定の減少などが要因です。

これらの結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ3.5ポイント増加し、85.8%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、33億8千2百万円の支出となりました。税金等調整前四半期純利益は70億4千万円であり、売上債権の増加が26億1千1百万円、法人税等の支払が65億5百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、5千6百万円の収入となりました。定期預金の預入による支出が4億9千5百万円、固定資産の取得による支出が3億7百万円となりましたが、定期預金の払戻による収入が6億7千4百万円、固定資産の売却による収入が1億8千5百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、32億1千3百万円の支出となりました。配当金の支払に32億7千6百万円を支出したことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ68億3千7百万円減少し、575億1千1百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は概ね予定通り推移しており、平成22年5月11日に公表した連結業績予想は修正していません。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 会計処理基準に関する事項の変更

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しています。

これにより、営業利益および経常利益は3百万円、税金等調整前四半期純利益は111百万円それぞれ減少しています。

② 表示方法の変更

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	49,581	56,677
受取手形及び売掛金	37,737	35,268
有価証券	8,998	8,998
商品及び製品	11,083	11,210
仕掛品	517	425
原材料及び貯蔵品	2,107	1,987
繰延税金資産	1,309	2,166
その他	2,101	2,098
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	113,435	118,832
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	40,909	41,569
減価償却累計額及び減損損失累計額	△26,579	△26,946
建物及び構築物(純額)	14,329	14,622
機械装置及び運搬具	11,022	11,137
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,165	△9,142
機械装置及び運搬具(純額)	1,857	1,994
土地	8,226	8,418
リース資産	124	133
減価償却累計額及び減損損失累計額	△35	△35
リース資産(純額)	89	97
建設仮勘定	40	43
その他	10,752	10,862
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,430	△9,464
その他(純額)	1,321	1,397
有形固定資産合計	25,863	26,574
無形固定資産		
ソフトウェア	1,103	1,158
その他	50	72
無形固定資産合計	1,154	1,231
投資その他の資産		
投資有価証券	10,956	12,239
繰延税金資産	6,893	6,702
その他	1,506	1,299
投資その他の資産合計	19,356	20,240
固定資産合計	46,375	48,046
資産合計	159,810	166,878

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,278	5,600
短期借入金	544	543
未払金	7,247	7,936
未払法人税等	1,217	6,618
賞与引当金	1,325	2,687
その他	2,664	1,901
流動負債合計	18,279	25,286
固定負債		
退職給付引当金	3,045	2,910
役員退職慰労引当金	430	456
資産除去債務	158	—
その他	453	621
固定負債合計	4,088	3,988
負債合計	22,367	29,275
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,581	6,538
資本剰余金	7,276	7,233
利益剰余金	134,227	133,053
自己株式	△4,977	△4,958
株主資本合計	143,108	141,866
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△627	136
為替換算調整勘定	△5,298	△4,660
評価・換算差額等合計	△5,926	△4,524
新株予約権	260	260
純資産合計	137,442	137,603
負債純資産合計	159,810	166,878

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	29,302	26,212
売上原価	8,585	8,540
売上総利益	20,716	17,672
販売費及び一般管理費	10,408	11,034
営業利益	10,308	6,637
営業外収益		
受取利息	11	8
受取配当金	150	222
生命保険配当金	128	117
為替差益	—	52
その他	92	127
営業外収益合計	382	528
営業外費用		
支払利息	10	12
為替差損	83	—
持分法による投資損失	108	—
その他	12	5
営業外費用合計	214	18
経常利益	10,477	7,147
特別利益		
固定資産処分益	—	5
特別利益合計	—	5
特別損失		
固定資産処分損	7	3
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	108
特別損失合計	7	111
税金等調整前四半期純利益	10,469	7,040
法人税、住民税及び事業税	3,107	1,231
法人税等調整額	813	1,230
法人税等合計	3,921	2,462
少数株主損益調整前四半期純利益	—	4,578
四半期純利益	6,548	4,578

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,469	7,040
減価償却費	850	739
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	126	135
受取利息及び受取配当金	△161	△230
支払利息	10	12
持分法による投資損益 (△は益)	108	—
売上債権の増減額 (△は増加)	18	△2,611
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△441	△211
仕入債務の増減額 (△は減少)	△939	△375
その他	165	△1,595
小計	10,205	2,902
利息及び配当金の受取額	159	230
利息の支払額	△5	△10
法人税等の支払額	△4,083	△6,505
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,276	△3,382
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△495
定期預金の払戻による収入	1,044	674
固定資産の取得による支出	△323	△307
固定資産の売却による収入	—	185
投資有価証券の取得による支出	△1,001	△1
投資有価証券の売却による収入	—	1
その他	15	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△264	56
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△42	—
配当金の支払額	△3,230	△3,276
その他	57	63
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,214	△3,213
現金及び現金同等物に係る換算差額	85	△298
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,882	△6,837
現金及び現金同等物の期首残高	45,956	64,348
現金及び現金同等物の四半期末残高	48,838	57,511

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

参天製薬グループの報告セグメントは、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている構成単位から、参天製薬グループが主な事業内容としている医薬品の製造・販売を中心とする「医薬品事業」に係るものを集約したものです。

「医薬品事業」では、医療用および一般用医薬品の製造・販売を行っています。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	25,759	453	26,212	—	26,212
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	32	32	△32	—
計	25,759	485	26,245	△32	26,212
セグメント利益又は損失 (△)	6,730	△93	6,637	—	6,637

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上高

(単位 百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成22年3月期			平成23年3月期		
		第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
医療用医薬品		27,643 (14.8)	55,598 (12.9)	103,806 (8.4)	24,773 (△10.4)	50,399 (△9.4)	100,332 (△3.3)
クラビット点眼液 レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	3,100 (△4.7)	6,639 (△5.3)	12,240 (△1.6)	3,284 (5.9)	6,712 (1.1)	12,702 (3.8)
タリビッド点眼液 オフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	756 (2.0)	1,441 (△0.7)	2,423 (△2.6)	606 (△19.8)	1,333 (△7.5)	2,456 (1.3)
タブロス点眼液 タフルプロスト点眼液	緑内障治療剤	856 —	1,984 —	4,687 (342.8)	1,631 (90.3)	4,082 (105.7)	8,254 (76.1)
チモプトル点眼液 チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	766 (△10.5)	1,513 (△13.1)	2,832 (△11.9)	624 (△18.5)	1,010 (△33.2)	2,045 (△27.8)
チモプトルXE点眼液 チモロールマレイン酸塩持続性点眼液	緑内障治療剤	901 (1.5)	1,788 (△1.9)	3,475 (△0.0)	848 (△5.9)	1,345 (△24.7)	2,724 (△21.6)
デタントール点眼液 ブナゾシン塩酸塩点眼液	緑内障治療剤	575 (△4.2)	1,127 (△4.6)	2,168 (△5.1)	549 (△4.5)	1,114 (△1.2)	2,255 (4.0)
レスキュラ点眼液 インプロピル ウノプロストン点眼液	緑内障治療剤	1,013 (△14.1)	1,981 (△14.2)	3,669 (△16.3)	770 (△24.0)	1,505 (△24.0)	3,049 (△16.9)
リボスチン点眼液 レボカバスチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー 点眼剤	565 (△12.7)	1,272 (△8.5)	3,229 (△24.9)	511 (△9.6)	1,350 (6.2)	3,287 (1.8)
ヒアレイン点眼液 ヒアルロン酸ナトリウム点眼液	角膜疾患治療剤	5,403 (7.0)	10,978 (4.2)	21,219 (5.9)	5,212 (△3.5)	10,506 (△4.3)	20,717 (△2.4)
フルメロン点眼液 フルオロメロン点眼液	抗炎症点眼剤	1,124 (0.4)	2,307 (0.2)	4,432 (△5.1)	1,051 (△6.6)	2,169 (△6.0)	4,345 (△2.0)
カリーユニ点眼液 ピレノキシ点眼液	初期老人性 白内障治療剤	940 (3.9)	1,933 (4.4)	3,728 (4.4)	934 (△0.6)	1,936 (0.1)	3,784 (1.5)
オバガンハイ眼粘弾剤 ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤	眼科手術補助剤	875 (9.3)	1,767 (8.1)	3,431 (6.0)	830 (△5.1)	1,617 (△8.5)	3,154 (△8.1)
リマチル錠 ブシラミン錠	抗リウマチ剤	1,155 (△3.6)	2,281 (△2.5)	4,352 (△4.1)	1,055 (△8.6)	2,023 (△11.3)	3,971 (△8.8)
アザルフィジンEN錠 サラゾスルファピリジン腸溶錠	抗リウマチ剤	1,095 (△0.1)	2,182 (1.5)	4,216 (0.7)	1,082 (△1.2)	2,023 (△7.3)	4,041 (△4.2)
一般用医薬品		1,298 (0.7)	2,792 (2.6)	5,251 (0.5)	986 (△24.0)	2,803 (0.4)	5,365 (2.2)

下段: 対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	第一三共	日本	2010年2月					
ニューキノロン系抗菌薬の高濃度製剤。承認審査中。										
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同	日本	2008年12月					
				欧州	2008年6月					
				米国	(導出)					
				アジア	2010年3月					
プロスタグランジン系緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、国内での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月、米国等での開発権をメルク社に許諾。アジアでは香港、韓国にて発売中。中国にてフェーズ3実施中。										
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	インスパイア社	日本	2010年4月					
				アジア						
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年4月、日本にて製造販売承認を取得し、現在発売準備中。中国にてフェーズ3実施中。										
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	シェリング・プラウ社	日本	準備中					
視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。シェリング・プラウ社により片頭痛治療剤として販売中。										
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	第一三共	米国	(フェーズ1/2)					
				日本						
主にドライアイに伴う角結膜上皮障害に対する改善効果を期待。現在発売および開発中の薬剤と異なる作用機序を有し、角結膜上皮細胞に直接働きかける点眼薬。										
未定	DE-102	糖尿病黄斑浮腫	オークウッド社と共同	日本	(フェーズ1/2)					
ドラッグデリバリーシステムの概念を取り入れたステロイドマイクロスフェア製剤。研究段階では眼局所への投与により長く安定した薬効持続性を確認。商業用スケールでの製造技術開発で米国オークウッド社と提携。										
未定	DE-104	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同	米国	(フェーズ1/2)					
				日本						
宇部興産との共同研究で見出したROCK阻害活性を有する緑内障・高眼圧症治療剤で、既存の薬剤と異なる作用機序を持つ。線維柱帯細胞に直接作用し房水流出を促進すると考えられ、強力な眼圧下降作用を期待。										
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	自社	米国						
				日本						
既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞進展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。										
シロリムス	DE-109	滲出型加齢黄斑変性 糖尿病黄斑浮腫	自社	日本	(フェーズ1/2)					
免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する結膜下注射および硝子体内注射剤。2010年6月に全世界での開発・製造・販売権をマキユサイト社より取得。										

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-110	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む) アレルギー性結膜炎	自社	米国	準備中					

選択的グルココルチコイド受容体作動薬(SEGRA)。前眼部疾患(ドライアイを含む角結膜上皮障害およびアレルギー性結膜炎)を対象として、米国でフェーズ2準備中。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-098 (抗APO抗体)	関節リウマチ	セントコア社	欧州	(フェーズ1/2)					
				日本	(フェーズ1/2)					

RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。セントコア社から抗APO-1抗体の国内外での開発販売権を導入。実生産規模での原薬製造工程を確立。日本および欧州にて治験実施中。

■ 平成22年3月期発表時(平成22年5月11日)からの変更点

コード番号	効能・効果	開発ステージ	実施地域	変更点
DE-085	緑内障・高眼圧症	発売	欧州	発売国追加

コード番号	効能・効果	開発ステージ	実施地域	変更点
DE-110	角結膜上皮障害(ドライアイを含む) アレルギー性結膜炎	フェーズ2準備中	米国	フェーズ1終了および対象疾患追加

(3) 設備投資、減価償却費、研究開発費の実績および見込額

■設備投資

(単位 百万円)

	平成22年3月期			平成23年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
設備投資額	202	376	1,228	192	1,610	2,790

■減価償却費

(単位 百万円)

	平成22年3月期			平成23年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
総額	784	1,586	3,202	687	1,450	3,060
製造経費	407	822	1,701	365	750	1,600
販売管理費	143	294	556	137	310	640
研究開発費	232	470	945	185	390	820

(注)長期前払費用および営業権の償却費は除いています。

■リース料

(単位 百万円)

	平成22年3月期			平成23年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
総額	177	334	527	66	100	190
製造経費	153	287	437	46	80	160

■研究開発費

(単位 百万円)

	平成22年3月期			平成23年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
研究開発費	2,939	6,922	14,123	3,380	6,800	14,100
対売上高比	10.0%	11.7%	12.8%	12.9%	12.5%	13.0%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。